

& Forest

人と地球がともに豊かになる森の恵みを、未来へ

森を育て、守ることで、森の持続可能性を高め、国土保全、環境保全、国内林業の支援に貢献

北海道で“終わらない森”をつくる



三井不動産グループが北海道の31市町村で保有する森は、約5,000ha（東京ドーム約1,063個分※）に及びます。その6割強はトヨタなどの人工林で、計画的な植林と適切な管理・育成を行っています。また、その森の間伐材や主伐材を建築資材や什器などを使用することで、森の更新を図り、“終わらない森”をつくっています。

なお、残りの4割弱はミズナラなどの天然林で、こちらは最低限の管理にとどめ、自然のままに保全しています。

※東京ドーム約4.7haで計算。



終わらない森を軸とした持続可能な地域社会をつくる

三井不動産および保有林の育成・管理を行っている港工ステート(株)は、北海道下川町と、2017年7月に「終わらない森づくり」を基軸とした持続可能な地域社会創造に係る包括連携に関する協定を締結しました。

- ◆ 森林の持続可能な管理
- ◆ 適正な森林資源を活用した持続可能な消費と生産
- ◆ 森林の多面的機能による気候変動対策・エネルギー確保などを図ります。



▶ 北海道下川町との協定調印式

東京都の水源地の森を守る



東京水道～企業の森

東京都水道局では、将来にわたって多摩川上流の水源地を守るため「みんなでつくる水源地の森実施計画」を策定しています。また、都民や企業など、さまざまな方とともに森づくりを行うことで、水源地保全の重要性についての理解促進を図っています。

三井不動産は、この事業の主旨に賛同し、2017年6月に「東京水道～企業の森（ネーミングライツ）」の協定を締結し、東京都水道局と協働して、グループ社員による森林保全作業体験などを通じ、水源地の森の保全活動を行っています。



水源地の森の保全作業体験

2017年より「三井不動産 & EARTH FOREST TOKYO」（山梨県甲州市）において、三井不動産社員による森林保全作業体験を実施しています。2019年は、現地の森林保全活動として「下刈り」を行った他、奥多摩の地域の文化・自然に触れながら、水道水源地林保全の重要性を学ぶ研修を実施しました。

